

お元気でですか。懐かしさにペンをとりました。

私は、十五年生活した都を捨て、主人と、娘二人、二匹の犬と、猫二匹、一羽のお喋りインコ、みんなで二〇〇〇kmの海を越えて沖縄に移り、もう六年の歳月をこの南の島ですこししています。リゾートとは無縁の本島北部、太平洋側の嘉陽カウという小さな海辺の集落に生活しています。

O B 短 信

〒905-22 沖縄県名護市嘉陽9
TEL (1980) 55-8862
奥行 淑子 (旧姓宮野) (69E)

ここは、パスポートの必要だった時からこの島に魅せられて何度も通っていた私たちが、こどもが生まれたら必ず大都会ではなく、こんな所で育ててみたいと思っていた所なのです。

こちらに来た時には、一ママ、なぜこの海は底まで透けてみえるの〜と驚いていた娘たちも、今では私よりも大きくなり、方言を話し、魚のように珊瑚礁の中を泳ぎまわり、色々な獲物を食卓に運んでくれる鳥の子になっています。

北部の大都会、人口五万の名護の職



場までは二km。その間、信号は一つもありません。車で三〇分程の海辺を毎日楽しんでおります。浜に寝そべって、ビール片手に白い砂に照りかえる月光で本を読むなどという私の日常も、考えてみれば何てリッチなことでしょう。ここではお金はなくとも、大自然と、かけがえのない集落の人々の人情が私たちの宝物です。

そんな片田舎ですが、こちらの方にお見えの際には是非お立ち寄り下さい。海の幸をごちそういたします。ではお元気で。

一九九一年九月二十日



恩師の近況

本学名誉教授小林茂先生は、平成二年の叙勲で勲四等瑞宝章を受けられま

した。先生は一九七五年から約二年半学長代行を歴任、また被差別部落史の権威者で現在も研究活動に精力的に携わっています。先生の恒例の夏期集中濃講義「同和問題」は日本の大学でも珍しく、評価の高いものです。

大 学 通 信



加藤 鏡吉先生より

実社会での業務遂行のために必要な勉強は社会へ出てから行なうものであり、大学での学習はそのための基礎を培うものであるとは、常に言ってきたことでもあります。この事については、経験を得られた卒業生の皆さんの同意を得られるものと思えます。その信条での講義やゼミの成果が気になるところです。私も近く奉職二五年、やがては定年も来ます。

皆さん同様、この学園を良い思い出の場にしたいものと思っています。



各種証明書の申込方法

各種証明書の申し込みはつぎの要領でどうぞ！

- (1) ご依頼文には、氏名、生年月日、在学時の学部学科名、卒業年度を書き、必要な証明書を明記して下さい。
- (2) 発行手数料と返信郵送料を手紙に同封し、教務課へ依頼して下さい。

成績証明書 / 三〇〇円 (和文)

卒業証明書 / 二〇〇円 (和文)

卒業証明書 / 二〇〇円 (英文)

卒業証明書 / 二〇〇円 (英文)

郵送料 / 一〇〇円

*なおお急ぎの方は、同窓会事務室へご連絡下さい。